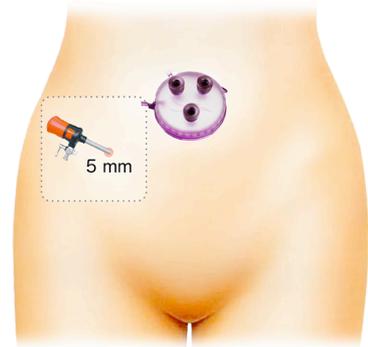




腹腔鏡下付属器腫瘍摘出術について

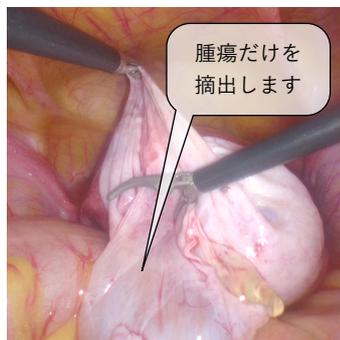
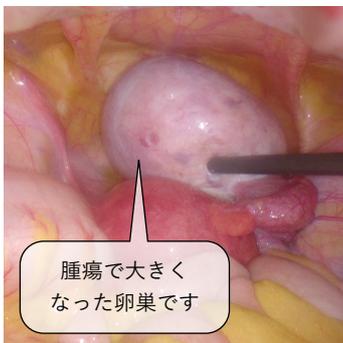
● 手術の方法

- 全身麻酔下に**卵巢奇形腫**以外の良性の子宮付属器腫瘍を摘出する手術です。
- 臍を縦に20～30mm、右下腹部を5mm切開し、内視鏡や手術器具を挿入します。子宮の位置や角度を操作する子宮マニピュレーターも装着します。
- 皮膚は吸収糸で閉鎖し、湿潤環境で創傷治癒を促進するシールを貼付します。退院時にシールを交換します。
- 手術時間は平均50分（30～100分）です。



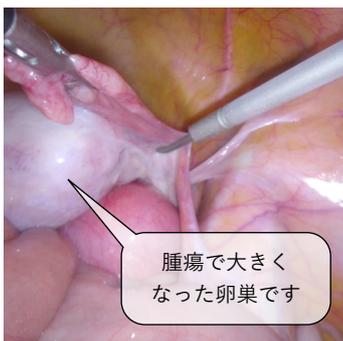
● 腹腔鏡下付属器腫瘍摘出術 (LC)

- **若年～生殖年齢の卵巢嚢腫**の場合は、嚢腫だけを摘出して正常卵巢組織をすべて温存します。卵巢皮質をマイクロ波穿刀で切開し、卵巢嚢腫を正常卵巢から剥離して摘出します。卵巢の止血を確認し、吸収糸で縫合して形成します。
- **傍卵管嚢胞**（胎生期の生殖管の遺残により発生した嚢胞）の場合は、卵管間膜を切開して嚢胞を摘出します。切開創が広い場合は縫合して閉鎖します。
- 摘出した腫瘍を回収バッグに入れて内容物が漏れないようにし、臍の切開創から摘出します。腹腔内を生理食塩水で洗浄し、癒着防止スプレーを噴霧します。



● 腹腔鏡下付属器摘出術 (LA)

- **挙児希望のない閉経前期～閉経後**の場合は、付属器（卵巢と卵管）を切除します。
- 超音波凝固切開鉗子で付属器を切除し、摘出した腫瘍を回収バッグに入れて内容物が漏れないようにし、臍の切開創から摘出します。



●手術中に起こり得る予定外の事態（合併症を除く）

- 周囲に炎症を起こした腫瘍は、正常卵巣組織から分離できないことがあります。切開を追加したり、下腹部正中に20～30cmの切開を加え、腹腔鏡補助下手術に変更することがあります。
- 性交経験がなく腔が狭い、あるいは長期間の偽閉経療法で腔が萎縮した場合、子宮マニピュレータの着脱によって腔壁裂傷を生じることがあります。裂傷は縫合します。
- 過去に受けた手術や腹膜炎などによって腹腔内に高度の癒着があり、内視鏡の視野を確保できない場合は中止することがあります。
- 今後、妊娠を希望する方で、手術中に卵管・卵巣の癒着や子宮内膜症が見つかった場合は、癒着剥離や内膜症病変の治療も追加します。

●術後に気をつけること

- 医療用バンドは1週間程度で自然にはがれ落ちます。退院後は普段どおりにシャワーや入浴できますが、バンドをこすらないようにしてください。
- 卵巣腫瘍は病理組織検査で診断が確定します。悪性だった場合は高次医療施設に紹介します。
- まれに再発することがあります。少なくとも1年に1回は検診を受けたほうが良いでしょう。

●手術・入院の費用

- 当院では、木曜日入院、金曜日の午後に手術、月曜日に退院する4泊5日を基本的なスケジュールとしています。希望に応じて入院期間を短縮・延長できます。
- 卵巣奇形腫に対する腹腔鏡下手術と入院にかかる費用の目安です。

保険診療 (3割負担)	食事・個室料金など (自費)	合計
151,000～165,000円	68,000～73,000円	220,000～240,000円

- 保険診療の自己負担額のうち上限額（年収などによって異なります）を超えた分が支給される高額療養費制度もあります。
- 医療保険を請求する場合は保険会社の書類を準備して受付に提出してください。